



We Find the Way



BUSINESS REPORT

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社

中間報告書 | 2022年1月1日 ▶ 2022年6月30日



We Find the Way

証券コード No.9147

日本通運グループは、NXへ。

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。NXグループの第1期第2四半期(2022年1月~6月)の概況につきまして、ご報告申し上げます。

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
代表取締役社長

齋藤 充



当第2四半期累計期間の世界経済は、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」などの蔓延により、一部の国や都市で移動や経済活動に制限が課され、景気回復ペースを鈍化させる状況となりました。また、ロシアによるウクライナへの侵攻により、世界的なエネルギーや原材料の価格上昇など、世界経済の景気後退リスクも高まっており、先行きが見通せない状況にありました。

このような経済情勢のなか、物流業界におきましては、主要国における生産・販売活動の再開により荷動きの回復傾向が継続しておりましたが、国内物流においては、半導体不足やロックダウンによる部品調達への影響を受けた自動車産業といった一部産業の低迷など全体としての荷動きは力強さに欠ける状況で推移いたしました。

国際物流では、引き続き拡大基調にはありますが、ロシアのウクライナ侵攻に伴う航空機の飛行ルート変更による減便や、ロシア向け海上輸送の停止に伴う欧州主要港でのコンテナ滞留や混雑なども生じており、その動向に注視が必要な状況にあります。

このような経営環境のなか、NXグループは、2019年4月1日よりスタートいたしました5年間の経営計画「NXグループ経営計画2023~非連続な成長“Dynamic Growth”~」に掲げた大きな方向性は変えることなく、足元の経営基盤を強化しながら、2023年最終目標に定めた各種指標の達成と、「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」という長期ビジョン実現に向け、グループ一丸となって取り組んでおります。

事業の成長戦略

●コア事業の成長戦略

営業戦略の中核に「グローバルアカウントマネジメント」を据え、グローバルな営業体制、組織の更なる強化に取り組んでまいりました。「顧客(産業)軸アプローチ」では、特に注力する半導体産業や、急速なEV化が進む自動車産業など、今後の拡大が見込まれる分野への取組みを強化するとともに、「事業軸アプローチ」では、国際海運事業の更なる強化に向け、グローバルな調達機能である「NXグローバルオーシャンネットワーク」をシンガポールに新設

し、エリア軸の成長に繋げる取組みを進めてまいりました。

●日本事業の強靱化戦略

倉庫オペレーションの生産性向上を推進する中核人材の育成を進め、先端技術導入による業務効率の向上に継続して努めてまいりました。また、従来の輸送モード別営業の枠を超え、陸海空を融合させたクロスモードセールスに取り組み、未取引分野の獲得による更なる売上の拡大に努めるとともに、徹底したコストコントロールにも努めてまいりました。

長期ビジョン実現のための取組み

●持続的成長と企業価値向上のためのESG経営の確立

2022年1月4日にホールディングス体制へ移行し、NXグループの持続的な成長を実現するために、グループ・グローバルガバナンスの一層の強化に取り組むとともに、ブランド力強化のために導入したグループブランド「NX」により、グループ一体で、グローバルなブランディングを展開しております。また、NXグループは物流を通じて持続可能な社会に貢献すべく、CO₂排出量削減に積極的に取り組んでおります。その取組みの一環として、本年5月に気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures) に賛同し、統合報告書で気候変動関連リスクおよび機会に関する「ガバナンス」「リスク管理」「指標と目標」「戦略」についての開示を行いました。今後も気候変動への取組みを進めていくとともに、取組み内容については、積極的に情報開示を行ってまいります。

NXグループのサステナブルな成長の前提となる、社員が幸せを感じる企業への変革に向け、ダイバーシティの推進や長時間労働の撲滅、年次有給休暇取得率の向上、リモートワークの定着などワークスタイル変革に継続して努めるとともに、従業員エンゲージメントの向上に向けた取組みを進めております。

この結果、**第1期第2四半期連結経営成績につきましては、売上高は1兆2,989億円、営業利益は677億円、経常利益は716億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は946億円**となりました。

なお、NXグループは、2022年をもちまして創業150周年を迎えることができました。また、2022年1月、NXグループは、持株会社体制に移行し、新たなスタートを切ることができました。これもひとえに、株主の皆様をはじめ、関係各位のご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。つきましては、株主の皆様にご感謝の意を表するため、第1期中間配当金につきましては、本年9月16日開催の取締役会において、1株当たり150円の記念配当を実施することとし、普通配当100円とあわせ、**1株当たり250円の配当**を実施し、支払開始日を本年9月21日とすることを決定いたしました。

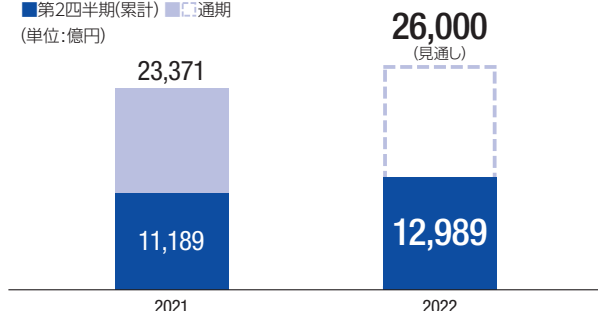
当下半期の経済動向につきましては、海外経済はロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う悪影響や、中国の景気回復遅れなど、経済の下押しリスクが顕在化しており、国内経済においても、新型コロナウイルス感染症の影響や国際的な資源価格の上昇に伴う物価上昇など、引き続き先行き不透明な状況で推移すると考えられます。

このような経営環境のなか、物流業界は、アフターコロナを見据えた事業環境の変化に加え、デジタル化への対応、先端技術の導入による新たな物流サービスの開発や、気候変動への対応など、業界全体として社会の持続的な成長を支える新たな価値創造産業への転換が求められております。NXグループとしても、企業価値向上に向けた人的資本経営の実現に向け、企業風土変革や働き方改革を推進し、人材の確保・育成への取組みを更に強化して、より一層の企業価値向上を図り、株主の皆様のご期待に応える所存でございますので、引き続き株主の皆様のご理解と温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年9月

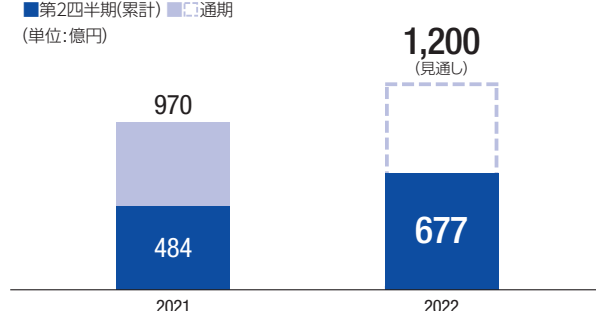
売上高

1兆2,989億円

■第2四半期(累計) ■前年同期
(単位:億円)


営業利益

677億円

■第2四半期(累計) ■前年同期
(単位:億円)

日本
(ロジスティクス)


売上高

7,254億円

営業利益

353億円

米州
(ロジスティクス)


売上高

747億円

営業利益

51億円

欧州
(ロジスティクス)


売上高

1,040億円

営業利益

60億円

東アジア
(ロジスティクス)


売上高

1,225億円

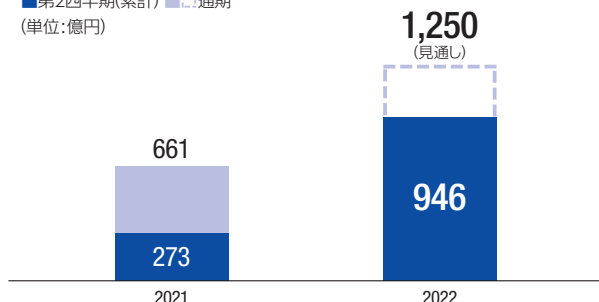
営業利益

63億円

親会社株主に帰属する四半期純利益

946億円

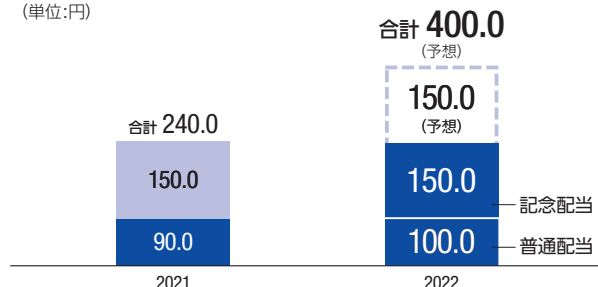
■第2四半期(累計) ■前期
(単位:億円)



中間配当金

250.0円

■中間 ■期末
(単位:円)



南アジア・オセアニア (ロジスティクス)



売上高

1,172億円

営業利益

114億円

警備輸送



売上高

344億円

営業利益

6億円

重量品建設



売上高

199億円

営業利益

22億円

物流サポート



売上高

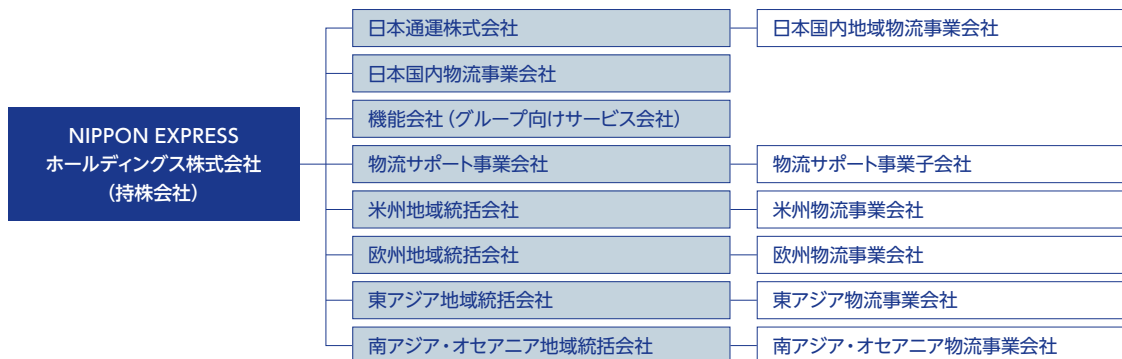
2,046億円

営業利益

84億円

日本通運グループは、NXへ。 NXグループ誕生 ホールディングス体制で変革を加速

2022年1月、当社グループはホールディングス体制へと移行し、NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社を持株会社として、新たなスタートを切りました。ホールディングス体制に移行することで、中長期の企業価値向上に欠かせないグローバルでのM&A戦略を加速させつつ、長期的視野に立ったサステナブルな経営を実践することで、長期ビジョンで掲げる「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」を目指していきます。「物流を通して社会に貢献し、豊かな未来を創る」という理念はそのままに、新たに導入したグループブランド「NX」の下、グループの力を結集し、自らを進化させ続け、物流から新たな価値を創造することに挑戦し続けていきます。



経営数値目標

売上高・営業利益(率)・純利益・海外売上高・ROE・FWD数量
セグメント別(ロジスティクス・重機建設・警備輸送・物流サポート)

NXグループ経営計画2023 取り組み骨子

コア事業の成長戦略

- グローバル市場での成長
- 国内大都市への経営資源の集中

日本事業の強靱化戦略

- 専門事業の収益性向上
- 営業・事務生産性の向上
- 低収益事業の抜本的改革

長期ビジョン実現のための取り組み

- 非連続な成長戦略
- 取り組みを支える機能強化
- 持続的成長と企業価値向上のためのESG経営の確立

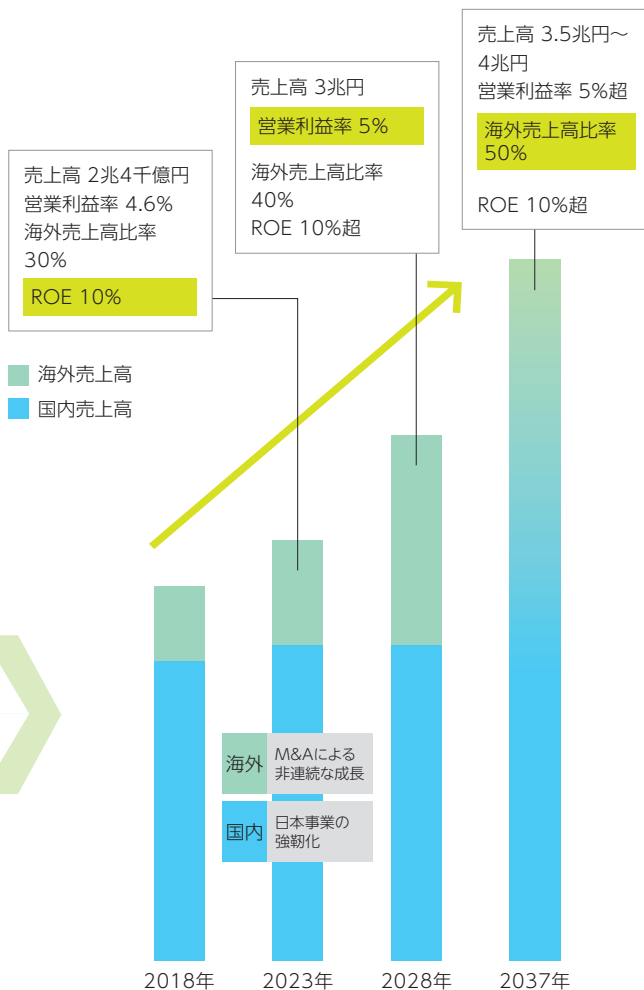
2022年～2023年度

NXグループ誕生 ホールディングス体制で変革を加速

- **事業ポートフォリオの見直し**
グループ事業の再編
- **専門事業の強化**
警備輸送事業分社化等による事業強化
- **非連続な成長**
海外におけるM&Aの強化
- **ガバナンスの強化**
グローバル統括機能の進化
- **ブランド戦略**
NXグループブランドのグローバル浸透・強化

長期ビジョン（2037年ビジョン）の実現

グローバル市場で存在感を持つ ロジスティクスカンパニー



POINT 1



進化し続ける事業・組織

ホールディングス会社のグローバル事業本部にグローバル事業に関する統括機能を集約・強化し、事業戦略の実践を加速。今後も日本事業の再編等、継続的に組織の最適化を推進。

POINT 2



サステナビリティ経営の推進

ホールディングス会社において、サステナビリティ推進部とともに、サステナビリティ推進委員会を設置し、気候変動問題を含むサステナビリティ全般の取組みを推進。各マテリアリティの取組みについて、価値創出へのつながりをより明確化して推進。

POINT 3



ガバナンスの強化

サステナビリティ経営、DXなど、グローバルレベルで取り組むべき課題に対応するために、「迅速・果断な意思決定と責任の明確化」と「コンプライアンスの徹底と経営の透明性の確保」に向けた取組みを加速。

どんなものでも、どこへでも、あらゆる輸送手段を駆使して、最善の方法で運んできたからこそ、多くのお客様に選ばれ、発展してきました。それを可能にしているのは、創業以来培ってきた、輸送モード、ネットワーク、そして現場力です。

強み

1

多様な輸送モード

大きさや重さなどの荷物の条件や、お届け期日などのお客様の要望はさまざまです。NXグループでは、トラック、鉄道、船、飛行機と、陸海空全ての輸送手段をそろえています。厳密な温度管理が必要な医薬品や生鮮食品、振動制御が必要な精密機器、湿度管理が必要な美術品など特殊な条件を要する荷物でも、最適な輸送方法で運ぶことができます。

自動車台数*

国内 22,607台
海外 10,294台

荷役・建設車両台数*

国内 7,670台
海外 1,322台

営業倉庫面積

国内(日本通運株式会社)
370 万㎡

海外倉庫面積

374 万㎡

フォワーディング数量 (2021年1月~12月)

海運 75 万 TEU 航空 97 万 t
(TEU:Twenty-foot Equivalent Unit 20フィートコンテナ換算)

※自動車台数および荷役・建設車両台数については、国内台数は、日本通運株式会社の2021年12月末時点保有台数と、関連会社の2021年3月末時点の保有台数の合計です。海外台数は、2021年3月末時点の保有台数です。

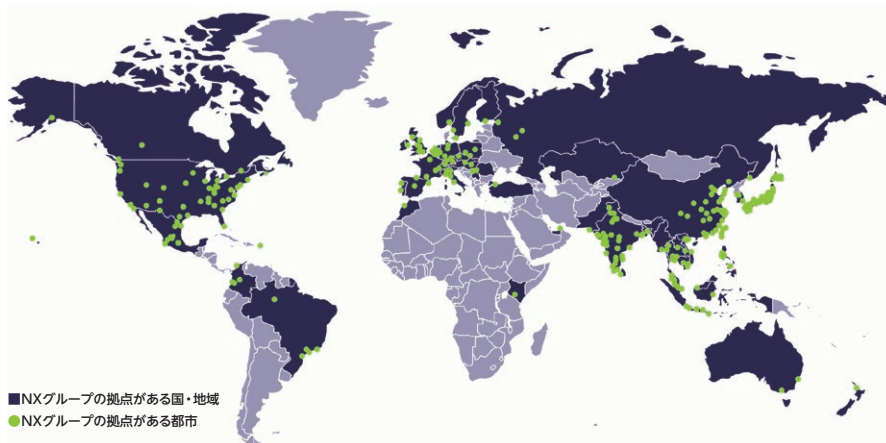
強み

2

世界的なネットワーク

NXグループは80年を超える歴史のなかで、全国を網羅する物流ネットワークを築き上げてきました。1962年には初の海外現地法人を米国に設立し、海外に歩を進めました。現在、NXグループの拠点に加え信頼できる現地パートナーとの連携も含め永年にわたって築き上げた世界最大規模のネットワークで、世界中どこへでも荷物をお届けすることが可能です。

NXグループ進出国・地域



海外ネットワーク

49 国/地域 310 都市

730 拠点

グループ合計

321 社

従業員

連結 73,350 名

海外 21,327 名

強い現場力

私たちNXグループがお客様に提供するサービスの根源は、1937年の創業以来磨き上げてきた、常に最善の方法を見つけ出し、必ずやり遂げる「強い現場力」です。

お客様の要望は実にさまざまであることに加え、お客様も、物流業界も、環境負荷の低減をはじめとしたSDGsへの対応など多くの社会的な課題に直面しています。

NXグループは、これら社会的な課題を踏まえ、常にお客様に寄り添い、安全・コンプライアンス・品質に徹底的にこだわり、永年の経験で培われた「豊富なノウハウ」と「強い現場力」によって、お客様に満足していただけるサービスを提供致します。

これからも、社会とお客様の要請に確実に応えられるよう、現場力の強化に邁進してまいります。

市場での位置づけ

NXグループに寄せられたお客様からの厚い信頼が、グローバル市場での実績につながっています。物流業界は、経済のグローバル化に伴って、国際化が加速しています。グローバルランキングでは、国際的な物流網を構築している先進国を中心とした大手物流企業が上位に入っています。NXグループは、多様な輸送モード、世界的なネットワーク、強い現場力を強みとし、これからさらに市場での位置づけを高めてまいります。

ランク	本社所在地	企業	総収入(百万円)*	海運(TEU)	航空輸送(メートルトン)
1		DHL Supply Chain & Global Forwarding	2,973,339	2,862,000	1,667,000
1		Kühne + Nagel	2,694,742	4,529,000	1,433,000
2		DB Schenker	2,169,525	2,052,000	1,094,000
2		DSV Panalpina	1,909,111	2,204,902	1,272,405
3		Sinotrans	1,272,183	3,750,000	532,300
4		Expeditors	1,057,122	1,012,600	926,730
5		Nippon Express	2,021,762	660,152	720,115
6		CEVA Logistics	773,300	1,081,000	363,000
7		C.H. Robinson	1,618,705	1,200,000	225,000
8		Kerry Logistics	717,602	1,019,924	493,903
8		UPS Supply Chain Solutions	1,154,516	620,000	988,880

※2020年12月末時のレート(1ドル=104.50円)で換算。

出所:Armstrong & Associates,Inc.A&A's Top 25 Global Freight Forwarders List 2020年版。総収入、海運、航空輸送を総合的に勘案してランク付け。

TCFD提言への取り組み

当社は、2022年5月に金融安定理事会（Financial Stability Board、以下、FSB）により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures 以下、TCFD）※」の提言へ賛同を表明しました。



NXグループは、長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向け、「気候変動への取り組み」を重要課題（マテリアリティ）の一つと位置づけ、自社事業におけるCO₂排出削減に努めるとともに、お客様のCO₂排出削減に貢献する商品・サービスの創出に取り組んでおります。

今後、TCFDの提言に基づき、気候変動が事業にもたらすリスク・機会の分析とその財務的な影響を評価し、情報開示を進めてまいります。

なお、今年度発行の統合報告書（2022年6月発行）で賛同後の初回開示を行っております。

NXグループはこれからも、長期的視野に立ったサステナブルな経営を実践し、気候変動への取り組みを通じて、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

※気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）：2015年にFSBにより設立された、気候変動が事業に与えるリスクと機会の財務的影響に関する情報開示を企業に推奨する国際的イニシアチブ。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について情報開示することを推奨しています。

（TCFD ウェブサイト：<https://www.fsb-tcfd.org/>）

※初回開示内容の詳細につきましては、当社ホームページの統合報告書をご覧ください。

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/ir/library/annual/>



株主総会資料の電子提供制度について

会社法の改正により、株主総会資料が原則ウェブ化されます。

2022年9月1日に施行される改正会社法により、2023年3月以降に開催される株主総会から、株主総会資料を自社のホームページ等のウェブサイトに掲載し、株主に対して当該ウェブサイトのアドレス等を書面により通知する株主総会資料の電子提供制度が開始されます。

(ご参考) 電子提供制度のイメージ



インターネットのご利用が難しい株主様は、「書面交付請求」が可能です。

Q 「書面交付請求」とは？

A インターネットを利用することが困難な株主様を保護するためのお手続きです。お申し出いただいた株主様には発行会社より株主総会資料を書面でお送りします。なお、書面交付請求を行わなくても、URL等を記載した招集通知は必ず書面にて送られます。

Q 「書面交付請求」の受付期限は？

A 当社の株主総会の基準日である2022年12月31日までにお申し出いただくことにより、2023年の株主総会資料を書面で受け取ることができます。

Q お手続き方法は？

A 証券会社にお申し出の場合は、当社の口座を開設している証券会社へお問い合わせください。株主名簿管理人にお申し出の場合は、当社では三菱UFJ信託銀行株式会社となりますので、ホームページまたは専用ダイヤルよりお問い合わせください。

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター

専用ダイヤル 0120-696-505 (受付時間: 土・日・祝日を除く平日9:00~17:00)

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社役員（2022年6月30日現在）



後列向かって左から

① 監査役

青木 良夫

② 常勤監査役

溝田 浩司

③ 取締役

柴 洋二郎

④ 取締役

安岡 定子

⑤ 常勤監査役

有馬 重樹

⑥ 監査役

野尻 俊明

⑦ 監査役

讃井 暢子

前列向かって左から

⑧ 取締役

中山 慈夫

⑨ 取締役
常務執行役員

鈴木 達也

リスクマネジメント本部長
コンプライアンス・リスク統括部、
法務知財部、内部監査室担当⑩ 代表取締役社長
社長執行役員

齋藤 充

最高経営責任者
日本通運株式会社
代表取締役社長
社長執行役員

⑪ 代表取締役会長

渡邊 健二

取締役会議長

⑫ 代表取締役副社長
副社長執行役員

堀切 智

コーポレートマネジメント本部、
リスクマネジメント本部担当
コーポレートマネジメント本部長
日本通運株式会社代表取締役
副社長、副社長執行役員⑬ 取締役
常務執行役員

増田 貴

経営戦略本部長
日本通運株式会社
取締役常務執行役員⑭ 取締役
執行役員

赤間 立也

人財戦略統括部、コーポレー
トコミュニケーション部担当
人財戦略統括部長
日本通運株式会社執行役員

副社長執行役員

近藤 晃

専務執行役員

内田 敏朗
杉山 龍雄

常務執行役員

中川 真人

執行役員

田中 博之
大槻 秀史阿部 俊哉
北井 利一柿山 慎一
大辻 智海野 昭良
赤石 衛

(注1) 中山 慈夫、安岡 定子および柴 洋二郎の各氏は、社外取締役であります。

(注2) 野尻 俊明、青木 良夫および讃井 暢子の各氏は、社外監査役であります。

会社概要 (2022年6月30日現在)

会 社 名	NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
本 社	〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町2番地 https://www.nipponexpress-holdings.com/
設 立	2022年1月4日
資 本 金	701億75百万円
事 業 内 容	貨物自動車運送事業等を営むグループ会社の 経営管理およびそれに附帯する業務

株式の状況 (2022年6月30日現在)

株 式 数	発行可能株式総数	398,800,000 株
	発行済株式の総数	90,599,225 株
株 主 数	48,468名	

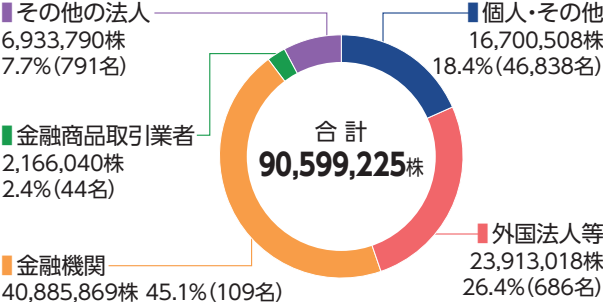
大株主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	14,326	15.8
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7,651	8.4
朝日生命保険相互会社	5,601	6.2
NX持株会	3,785	4.2
損害保険ジャパン株式会社	3,567	3.9

※持株比率は、自己株式1,224株を控除して計算しております。

所有者別株式の分布状況

〈株式数および比率〉



※自己株式1,224株は、「個人・その他」に含めております。

単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

当社に市場価格で
売却

60株

60株

=



現金化

買増請求

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。

40株を、当社から市場価格で

購入

60株

40株

=

100株

単元株式
(100株)

各種お手続きのお申し出先

①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社

②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行

(※下記までお問い合わせください。)

東京都府中市日鋼町1-1

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-232-711

<https://www.tr.mufig.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては当社ホームページでもご案内しております。

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/ir/stock-info/procedure/>



NIPPON EXPRESS 株式諸手続き

検索

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から 12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日
単元株式数	100株
上場取引所	東京
証券コード	9147
銘柄略称	NXHD

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公 告 方 法 電子公告
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告掲載ホームページアドレス
<https://www.nipponexpress-holdings.com/>

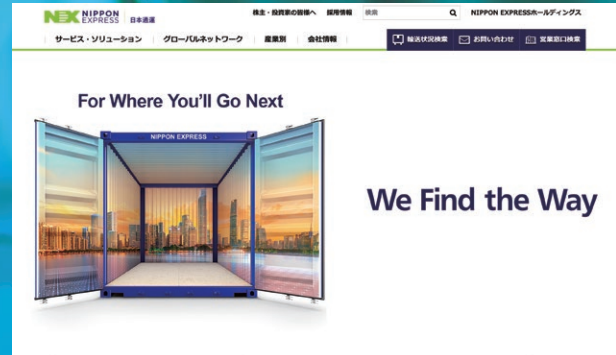
CORPORATION

NIPPON EXPRESSホールディングスのオフィシャルサイトがスタート。最新ニュースやIR情報などを発信しています。
<https://www.nipponexpress-holdings.com/>



CORPORATION

日本通運の事業内容やサービス紹介、最新ニュースなどを発信しています。
<https://www.nittsu.co.jp/>



SPORTS

部活動を通して、さまざまなスポーツの普及、振興、国際化に努めております。
<https://www.nittsu.co.jp/sports/>



TVCM

放映中のTVCMやTV番組を通じて、当社が展開しているさまざまな取組みを多くの方々にお伝えしています。
<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/about/video/>



LinkedIn公式アカウント

海外のNXグループで手掛ける事業内容を中心に、さまざまな情報を世界のビジネスユーザーに向けて発信しています。
<https://www.linkedin.com/company/nippon-express-group/>



Youtube公式チャンネル

TVCMや企業活動、歴史など当社にまつわる情報を映像でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/channel/UCatNmOs5hJzVWMfQeUnaQ>



NIPPON EXPRESSホールディングス誕生。

2022年1月4日、
日本通運グループは、NXグループとして
ホールディングス体制に移行しました。

日本通運グループは、グループの顔を「NX」に統一。

レガシーのすべてを受け継ぎ、グローバル市場での新たな飛躍へ向けてスタートしました。

ロジスティクスを進化させる創造性と実行力で企業・産業・社会の発展を支えていく、

真のグローバルビジネスパートナーへ。グループ全員がひとつに結束し、

国内・海外のお客様に、より高度で高品質なサービスを提供していきます。

NXグループの挑戦に、ご期待ください。



NX NIPPON
EXPRESS

NX NIPPON
EXPRESS
We Find the Way

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町2番地

URL: <https://www.nipponexpress-holdings.com/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。